

あきらめる勇氣

平成 29 年 7 月

立川女子高等学校

カウンセラーだより裏

小さい子と遊んであげたことがある人はわかると思いますが、小さなこどもは負けるのが嫌いで、負けると何回もやり直しがたりします。中には負けると泣いてしまう子もいます。それは、小さいこどもたちには、まだ「あきらめる勇氣」が育っていないからです。そこで私たちは、わざと小さいこどもに負けてあげたりします。小さい子どもを相手に真剣に勝負したり、勝ってしまったらすると「大人気ない」と言われることすらあります。



「あきらめる力」は成長するにつれて、どんどん育っていきます。「世の中にはうまくいかないこともある」ということが少しずつわかってくるからです。欲しいお菓子を買ってもらえなくて我慢したり、おもちゃを独り占めせずにお友達に貸してあげたり、といったことを経験していくうちに、少しずつ力がついてきて、我慢したり、人に譲ってあげたりすることが出来るようになってきます。様々な経験、特に負けたりざせつしたりという経験を通して、負けることに耐える力や、あきらめる力がドンドン大きく育っていきます。



がんばること、あきらめないこと、努力し続けることは大切なことです。でも、どうしても無理な時には、あきらめようと決心することも大切なことです。「今回は私の負けだ」とか「今回はあきらめることにしよう」と決断する力を持つことは、大人になるために必要なことです。本当に強い人とは、負けない人やあきらめない人のことを言うのではなく、負けた時やあきらめなければならない時、「負けた」とか「あきらめよう」という事実には耐える力を持っている人のことを言うのかもしれませんが。

昔の武将は戦で不利になると、早めに「今回は負け」と判断して逃げていました。負けるのが悔しくていつまでも戦い続けると、多くの家来が殺されてしまい、大きな負け戦になるからです。大切な家来を無駄に殺されないためには、殿様の「あきらめる力」が必要でした。

負けること、あきらめることは恥ずかしいことではありません。何かをあきらめた時や負けてしまったと感じた時は、しばらく休んで元気を取り戻しましょう。もう一度作戦を立て直すことも大事だと思います。そして再挑戦すべき時には再挑戦すればいいし、他のことに挑戦すべき時には、別のことに挑戦しましょう。一度の挑戦にこだわってあきらめる機会を逃し、結局大きく失敗することよりも、ダメだと思ったらやり方を見直す方が、早く「勝ち」や「成功」にたどり着けそうです。

